

## 指導と評価

教科名		科目名	講座名(校内名称)		単位数
国語		現代の国語	現代の国語		2
履修学科		履修年次	期	履修形態	
家政科		1	通期	一斉	
履修条件					
教材名・副教材名		高等学校 現代の国語（第一学習社） 頻出漢字マスター3000（尚文出版） デジタル版 ビジュアルカラー国語便覧（大修館書店）			
指導到達目標		言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次の通り育成することを目指す。 1 実社会に必要な国語の知識・技能を身につけるようにする。 2 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。 3 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。			
講座内容		○実社会において必要な語句の量を増やし、その構造や特色、用法及び表記の仕方などを理解し、使うことによって語感を磨き語彙を豊かにする。 ○目的や場に応じ、筋道を立てて話したり的確に聞き取ったりする力を培う。 ○相手や目的に応じ、自分の考えを深め、筋道を立てて適切に文章にできる力を身につける。 ○論理的な文章や実用的な文章を読解し、国語を適切に表現し、的確に捉える能力を育成する。 ○現代社会に関わる話題や問題を幅広く取り上げ、言語文化に対する関心を深め、読書に親しむ態度を身につける。			
評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	
	B おおむね満足できる	実社会に必要な国語の知識や技能を身につけるようにしている。	「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。	言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、読書に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもとうとしている。	
	C 努力を要する	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	
育てたい生徒像（資質・能力）との関連		幅広い教養 高度な技術	情報を分析し表現する力 論理的・多面的に思考する力 受容する力・対話する力	協働する力 やり抜く力	
評価方法		○授業態度の観察 ○定期考査 ○小テスト ○課題の点検	○授業態度の観察 ○定期考査 ○課題の点検 ○発表態度の観察	○授業態度の観察 ○課題の点検 ○発表態度の観察	

# 年間指導計画

期	考査 範囲	学習内容	学習のねらい
前 期	第1回	理解（一）評論 理解（二）小説 理解（三）評論 表現（一）書き方の基礎	<ul style="list-style-type: none"> <li>○文章の内容や構成，展開を的確に捉え，要旨を把握する力を養う。</li> <li>○文章のなかで常用漢字を活用し，語句の量を増やし，語彙を豊かにする。</li> <li>○接続表現や比喻などの表現技法の種類や用法を理解し，正確で分かりやすい文を書けるようになることを目指す。</li> <li>○書いた文章を批評し合う活動を行い，批評を踏まえて文章の構成・展開や表現を工夫する力を養う。</li> <li>○複数の資料や文章を読み比べて必要な情報を読み取り，複数の情報を関連づけてまとめられるようにする。</li> <li>○相手・目的・場面に応じた言葉遣いを理解し，課題に沿って適切に使えるようにする。</li> </ul>
	第2回	理解（四）実用文	
	第3回		
後 期	第4回	表現（二）話し方の工夫 理解（五）評論 理解（六）実用文 理解（七）小説	
	第5回		

\* 年間指導計画は予定であり，変更がある場合には，連絡します。

## 指導と評価

教科名		科目名	講座名(校内名称)		単位数
国語		言語文化	言語文化		2
履修学科		履修年次	期	履修形態	
家政科		1	通期	一斉	
履修条件					
教材名・副教材名		高等学校 言語文化（第一学習社） 新修 古典文法（京都書房） デジタル版 ビジュアルカラー国語便覧（大修館書店）			
指導到達目標		言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次の通り育成することを目指す。 1 実社会に必要な国語の知識・技能を身につけるようにする。 2 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。 3 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。			
講座内容		○我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増やし、それらの文化的背景について理解を深め、使うことを通じて語感を磨き語彙を豊かにする。 ○適切な材料を集め、自分の体験や思いが効果的に伝わるように表現の仕方を工夫する力を培う。 ○古典の世界に親しむために、特有の表現や修辞法、作品や文章の歴史的・文化的背景などについて理解を深め、古典の言葉と現代の言葉とのつながりについて理解する。			
評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	
	B おおむね満足できる	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身につけるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めるようにしている。	「書くこと」「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、読書に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもとうとしている。	
	C 努力を要する	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	
育てたい生徒像（資質・能力）との関連		幅広い教養 高度な技術	情報を分析し表現する力 論理的・多面的に思考する力 受容する力・対話する力	協働する力 やり抜く力	
評価方法		○授業態度の観察 ○定期考査 ○小テスト ○課題の点検	○授業態度の観察 ○定期考査 ○課題の点検 ○発表態度の観察	○授業態度の観察 ○課題の点検 ○発表態度の観察	

# 年間指導計画

期	考査 範囲	学習内容	学習のねらい
前 期	第1回	古文入門 漢文入門 故事成語 近現代の詩歌	<ul style="list-style-type: none"> <li>○古典の文章に慣れ、現代に通じる話のおもしろさや人間描写の巧みさを知る。</li> <li>○文章の舞台となる時代背景を知り、我が国の文化と外国の文化との関係について理解する。</li> <li>○現代詩歌の鑑賞のしかたを理解し、作品に現れた作者の心情を読み取る力を培う。</li> <li>○和歌の修辞技法とその効果について理解し、我が国の言語文化の特質や、外国の文化との関係について考える。</li> <li>○我が国の伝統芸能や行事に関する文章を読んで、扱われている題材や内容、表現技法などについて興味を広げ、自分の考えを持つとする。</li> </ul>
	第2回		
	第3回		
後 期	第4回	日記 随筆（一） 漢詩 古典の詩歌 伝統と文化	
	第5回		

\* 年間指導計画は予定であり、変更がある場合には、連絡します。

## 指導と評価

教科名		科目名	講座名(校内名称)		単位数
地理歴史科		歴史総合	歴史総合		2
履修学科		履修年次	期	履修形態	
家政科		1	通期	一斉	
履修条件					
教材名・副教材名		歴史総合 近代から現代へ (山川出版社)			
指導到達目標		社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。			
講座内容		<p>○近現代の歴史における様々な側面での変化について考察することを通して、広い視野で物事を捉え判断する力を養う。その力を生かし、現代における日本及び世界の諸課題の起因とその解決策について自分なりの理解・判断のできる人格を育てたい。</p> <p>○世界とその中の日本の歴史的な歩みを概観する。日本を中心としてみた歴史と、世界の流れの中に日本を位置づけた歴史の双方の視点を重視して指導を行うため、日本史的な観点と世界史的な観点の立場に立った授業を展開する。</p> <p>○中学校での学習事項を確認・整理しつつ、高等学校での学習内容へスムーズに移行できるよう配慮する。</p>			
評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	B を大きく上回っている状況	B を大きく上回っている状況	B を大きく上回っている状況	
	B おおむね満足できる	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界とその中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解している。諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。	近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義・特色などを、時期や年代・推移・比較・相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりすることができる。考察・構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりすることができる。	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとしている。多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などが深まっている。	
	C 努力を要する	B を大きく下回っている状況	B を大きく下回っている状況	B を大きく下回っている状況	
育てたい生徒像(資質・能力)との関連		幅広い教養 高度な技術	情報を分析し表現する力 論理的・多面的に思考する力 受容する力・対話する力	協働する力 やり抜く力	
評価方法		○定期考査 ○小テスト ○発問評価	○定期考査 ○グループディスカッション	○小テスト ○提出物 ○授業参加の態度	

# 年間指導計画

期	考査 範囲	学習内容	学習のねらい
前 期	第1回	<ul style="list-style-type: none"> <li>○諸地域世界の形成</li> <li>○近代化への問い（1 交通と貿易／2 産業と人口／3 権利意識と政治参加や国民の義務／4 学校教育／5 労働と家族／6 移民）</li> <li>○結びつく世界</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○主題学習や探究的学習の活動を多く設けることで、主体的・対話的で深い学びの機会を増やすとともに、思考・判断・表現の力を評価する機会を増やす。</li> <li>○明確な学習目標を持って各種史資料（文章・絵画・図表など）を提示し、歴史における時代的な変化、地域的な特色の豊かさを意識させるとともに、史資料を読み解く視点を身に付けさせる。</li> <li>○近現代史における「現代的な諸課題」として学習指導要領に明記された「自由・制限」「平等・格差」「開発・保全」「統合・分化」「対立・協調」の諸観点を、具体的な主題を絡めながら扱うことにより、現代的な諸課題に対する関心を深めさせるよう働きかける。</li> <li>○中学校までの社会科歴史分野の知識の範囲に配慮した授業展開、そして2年次以降の「世界史探究」「日本史探究」につながるような授業展開を意識し、歴史的な視野を深化させられる教育活動を行う。</li> </ul>
	第2回	<ul style="list-style-type: none"> <li>○近代ヨーロッパ・アメリカの成立</li> <li>○明治維新と日本の立憲体制</li> <li>○帝国主義の展開とアジア</li> <li>○近代化と現代的な諸課題（自由・制限／開発・保全）</li> </ul>	
	第3回	<ul style="list-style-type: none"> <li>○国際秩序の変化や大衆化への問い（1 国際関係の緊密化／2 アメリカ合衆国とソ連の台頭／3 植民地の独立／4 大衆の政治的・経済的・社会的地位の変化／5 生活様式の変化）</li> <li>○第一次世界大戦と大衆社会</li> </ul>	
後 期	第4回	<ul style="list-style-type: none"> <li>○経済危機と第二次世界大戦</li> <li>○国際秩序の変化や大衆化と現代的な諸課題（対立・協調／平等・格差／統合・分化）</li> <li>○グローバル化への問い（1 冷戦と国際関係／2 人と資本の移動／3 高度情報通信／4 食料と人口／5 資源・エネルギーと地球環境／6 感染症／7 多様な人々の共存）</li> </ul>	
	第5回	<ul style="list-style-type: none"> <li>○冷戦と世界経済</li> <li>○グローバル化する世界</li> <li>○現代の課題</li> <li>○現代的な諸課題の形成と展望</li> </ul>	

\* 年間指導計画は予定であり、変更がある場合には、連絡します。

## 指導と評価

教科名		科目名	講座名(校内名称)		単位数
数学		数学 I	数学 I		3
履修学科		履修年次	期	履修形態	
家政科		1	通期	一斉	
履修条件					
教材名・副教材名		新高校の数学 I (数研出版) ポイントノート数学 I (数研出版)			
指導到達目標		数と式, 2 次関数, 図形と計量及びデータの分析について理解させ, 基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り, 事象を数学的に考察する能力を培い, それらを活用する態度を育てる。			
講座内容		<p>1 「数と式」 整式の基本的な計算法や 1 次不等式・2 次方程式の解法を学び, 日常の数量計算や課題解決に活用できるようにする。</p> <p>2 「2 次関数」 関数を用いて数量の変化を表現することの有用性を認識し, 具体的な事象の考察や 2 次不等式を解くことなどに活用できるようにする。</p> <p>3 「三角比」 直角三角形における三角比やそれを鈍角まで拡張する意義を理解し, それらを具体的な事象の考察に活用できるようにする。</p> <p>4 「集合と命題」 集合についての基本的な事項を理解し, それらを命題などの考察に活かせるようにする。</p> <p>5 「データの分析」 データを表やグラフにまとめて整理し, 表計算ソフトを用いてデータの分析を行う。</p>			
評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	B を大きく上回っている状況	B を大きく上回っている状況	B を大きく上回っている状況	
	B おおむね満足できる	<p>○数と式, 2 次関数, 図形と計量及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。</p> <p>○事象を数理化したり, 数学的に解釈したり, 数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。</p>	<p>○命題の条件や結論に着目し数や式を目的に応じて適切に変形する力, 図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力, 関数関係に着目し事象を的確に表現して考察する力, データの散らばりや変量間の関係などに着目し解決の過程や結果を批判的に考察したりする力を身に付けている。</p>	<p>○数学のよさを認識し, 数学を活用しようとしたり, 粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとしたりしている。</p> <p>○問題解決の過程を振り返って考察を深めたり, 評価・改善しようとしたりしている。</p>	
	C 努力を要する	B を大きく下回っている状況	B を大きく下回っている状況	B を大きく下回っている状況	
育てたい生徒像 (資質・能力) との関連		幅広い教養 高度な技術	情報を分析し表現する力 論理的・多面的に思考する力 受容する力・対話する力	協働する力 やり抜く力	
評価方法		<p>○定期考査</p> <p>○確認テスト</p> <p>○行動観察</p> <p>○ワークシート</p>	<p>○定期考査</p> <p>○確認テスト</p> <p>○行動観察</p> <p>○ワークシート</p>	<p>○課題</p> <p>○行動観察</p> <p>○ワークシート</p>	

# 年間指導計画

期	考査 範囲	学習内容	学習のねらい
前 期	第1回	第1章 数と式 第1節 数と式の計算 1 計算の基本                      2 単項式と多項式 3 多項式の加法と減法          4 多項式の乗法 5 展開の公式                      6 因数分解 7 展開、因数分解の工夫 8 根号を含む式の計算          9 実数	○式を、目的に応じて1つの文字に着目して整理したり、1つの文字におきかえたりするなどして、既に学習した計算の方法と関連付けて、処理する力を養う。次に、中学校までに取り扱ってきた数を実数としてまとめ、数の体系についての理解を深める。また、簡単な無理数の四則計算ができるようになる。
	第2回	第2節 1次不等式 1 1次方程式 2 不等式 3 不等式の解 第2章 2次関数 第1節 2次関数のグラフ 1 関数 2 1次関数のグラフ 3 2次関数のグラフ(1) 4 2次関数のグラフ(2)	○不等式の解の意味や不等式の性質について理解するとともに、不等式の性質を基に1次不等式を解く方法を考察したり、具体的な事象に関連した課題の解決に1次不等式を活用したりする力を培う。  ○2次関数のグラフの特徴を理解するとともに、2次関数の式とグラフとの関係について、コンピュータなどの情報機器を用いてグラフをかくなどして多面的に考察する。
	第3回	第2節 2次関数の値の変化 1 2次関数の最大値、最小値 2 グラフと2次方程式 3 グラフと2次不等式 第3章 図形と計量 第1節 三角比 1 直角三角形 2 三角比 3 三角比の利用 4 三角比の相互関係 5 鈍角の三角形	○2次関数の値の変化について理解し、具体的な事象に関連した課題の解決に2次関数を活用する力を培う。2次方程式や2次不等式の解と2次関数のグラフとの関係について理解し、2次関数のグラフを用いて2次不等式の解を求められるようにする。  ○三角比の意味やその基本的な性質について理解し、三角比の相互関係などを理解できるようにする。日常の事象や社会の事象などを数学的にとらえ、三角比を活用して問題を解決する力を培う。
後 期	第4回	第2節 三角形への応用 4 正弦定理                          5 余弦定理 6 三角形の面積 第4章 集合と命題 1 集合                                  2 命題と集合 3 必要条件と十分条件	○三角比をもちいて表現し定理や公式を導く力、日常の事象や社会の事象などを数学的にとらえ、正弦定理、余弦定理などを活用する力を培う。  ○集合と命題に関する基本的な概念を理解し、それを事象の考察に活用できるようにする。
	第5回	第5章 データの分析 1 データの整理                      2 データの代表値 3 データの散らばり                  4 データの相関 5 仮説検定の考え方	○データの散らばり具合や傾向を数値化する方法を考察する力、目的に応じて複数の種類のデータを収集し、適切な統計量やグラフ、手法などを、選択して分析を行い、データの傾向を把握して事象の特徴を表現する力などを養う。

\* 年間指導計画は予定であり、変更がある場合には、連絡します。

## 指導と評価

教科名		科目名	講座名(校内名称)		単位数
理科		科学と人間生活	科学と人間生活		2
履修学科		履修年次	期	履修形態	
家政科		1	通期	一斉	
履修条件					
教材名・副教材名		科学と人間生活（実教出版） アクセスノート 科学と人間生活			
指導到達目標		自然と人間生活とのかかわり及び科学技術が人間生活に果たしてきた役割について，身近な事物・現象に関する観察，実験などを通して理解させ，科学的な見方や考え方を養うとともに，科学に対する興味・関心を高める。			
講座内容		1 科学と技術の発展 2 人間生活の中の科学 (1)物質の科学（①・②のどちらかを選択） ①材料とその再利用 ②食品と衣料 (2)生命の科学（①・②のどちらかを選択） ①生物と光 ②微生物とその利用 (3)光や熱の科学（①・②のどちらかを選択） ①光の性質とその利用 ②熱の性質とその利用 (4)宇宙や地球の科学（①・②のどちらかを選択） ①身近な天体と太陽系における地球 ②身近な自然景観と自然災害 3 これからの科学と人間生活			
評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	
	B おおむね満足できる	自然の事物や現象に関して，人間が長い時間をかけて獲得した知識の有用性を理解し，適切に利用することができる。自然の事物現象や科学と人間生活の関係を調査・実験・観察する技能を身につけ，それらの過程や結果，そこから導き出された考えを的確に表現することができる。	自然の事物や現象に問題を見出し，実験・観察・調査を行うとともに，ものごとを実証的・論理的に考察したり分析したりすることにより，総合的に判断し，それを表現することができる。	自然の事物や現象に関心を持ち，科学の発展と人間生活との関係を意欲的に，主体的に調査・探究して，科学的な見方・考え方を身につけようとする。	
	C 努力を要する	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	
育てたい生徒像（資質・能力）との関連		幅広い教養 高度な技術	情報を分析し表現する力 論理的・多面的に思考する力 受容する力・対話する力	協働する力 やり抜く力	
評価方法		○定期考査 ○実験	○定期考査 ○実験書	○授業にのぞむ姿勢 ○授業ノート ○課題	

# 年間指導計画

期	考査範囲	学習内容	学習のねらい
前	第1回	1章 科学と技術の発展	科学技術と科学を切り離して考えることができないことを理解する。
		2章 物質の科学（2節と選択） 1節 材料とその再利用	身近な物質がどのような材料でできているか、材料の適切な利用法を表現する。 金属・プラスチック・セラミックスの特徴や性質を知りそれらが現代社会にどのように貢献しているか理解する。
		2章 物質の科学（1節と選択） 2節 食品と衣料	食品を構成する糖類・油脂・タンパク質の特徴や性質を知り、生命体に果たす役割を理解する。 衣料に利用されている天然繊維・再生繊維・合成繊維の特徴や性質を知り、利点を見極め活用する。
	第2回	3章 生命の科学（2節と選択） 1節 ヒトの生命現象	眼の構造と視覚のしくみを学習する。 血液・血糖濃度・生体防御のしくみを学習する。 DNA・遺伝子発現のしくみを学習する。
		3章 生命の科学（1節と選択） 2節 微生物とその利用	微生物の発見・いろいろな微生物を学習する。 微生物の利用を学習する。 生態系での微生物のはたらきを学習する。
		4章 光や熱の科学（2節と選択） 1節 光の性質とその利用	身のまわりに光の現象を見出し、波の性質を使いそれらを科学的に分析する。 スペクトルなどによる電磁波の分類や、光が波であることを、回折や干渉など波の性質をもつことから理解し、身のまわりの現象として見出せる。
第3回	4章 光や熱の科学（1節と選択） 2節 熱の性質とその利用	熱と温度とを区別でき、熱の性質をこれに関わる現象及び歴史から理解し、日常生活に適切に利用できる。 人間生活の中に、エネルギーに関する科学技術を見出すことができ、エネルギーが有効に利用されているかを総合的に判断して表現することができる。	
	第4回	5章 宇宙や地球の科学（2節と選択） 1節 身近な天体と太陽系における地球	太陽や月などの運行の周期性が、時や暦など人間生活と深く関わっていること、太陽の放射エネルギーが地球の環境に影響していることを理解する。 地球を含む太陽系の天体の広がりや構造を知り、地球の特質を理解する。
5章 宇宙や地球の科学（1節と選択） 2節 身近な自然景観と自然災害		地域の自然景観は長い時間の中で変化してきたことが理解する。 自然災害は、地域の地質や地形、気候などの特性や地球内部のエネルギーに関連があり、特に流水・土石流の作用、地震や火山活動によって災害が起こることが理解する。	
第5回		6章 これからの科学と人間生活	これからの科学・技術と人間について考えることができる。 課題研究の進め方を学ぶ。 報告書の作成と発表について学ぶ。

\* 年間指導計画は予定であり、変更がある場合には、連絡します。

## 指導と評価

教科名		科目名	講座名(校内名称)	単位数
保健体育		体育	体育	2
履修学科		履修年次	期	履修形態
家政科		1	通期	一斉
履修条件				
教材名・副教材名		現代高等保健体育（大修館書店）		
指導到達目標		<p>○生涯にわたって運動，スポーツを継続していくために必要な技能・競技のルール・試合の進め方などを身につけることができる。</p> <p>○課題解決のために思考し，判断するとともに自己や仲間の考えたことを表現することができる。</p> <p>○仲間と競争や協働の経験を通して，互いに認め合い，高め合うことができる。</p>		
講座内容		<p>講座内容</p> <p>1 「体づくり運動」では，自己の体力や生活に応じて，体の調子を整え体力の向上を図る。</p> <p>2 「器械運動」「陸上競技」では，各種の技の習得や向上を目指し，自ら考え，工夫できるようにする。</p> <p>3 「球技」では，技能の段階に応じた作戦を立て，勝敗を競う過程に楽しさを味わうことができるようにする。また，グループの中で公正・協力・責任などの態度を育てる。</p> <p>履修上の注意</p> <p>本校規定の体操服（柔道着），体育館シューズ，グラウンドシューズをきちんと着用し，指導教員の指示をよく聞いて，安全に留意して授業を受けること。</p>		
評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	B を大きく上回っている状況	B を大きく上回っている状況	B を大きく上回っている状況
	B おおむね満足できる	種目の特性やルール，試合の進め方等を理解し，実践することができる。また，各種目に必要な技能や体力を身につけ，努力を怠らず向上させることができる。	課題を発見し，話し合い活動へ積極的に関わったり，課題解決に向けた提案を行ったりすることができる。また，自己の考えを仲間に伝えることができる。	準備や片付け，グループや集団の中での協力・競争・協働など主体的かつ積極的に学びに向かうことができる。また，健康安全に留意しながら活動を行おうとする。
	C 努力を要する	B を大きく下回っている状況	B を大きく下回っている状況	B を大きく下回っている状況
育てたい生徒像（資質・能力）との関連		幅広い教養 高度な技術	情報を分析し表現する力 理論的・多面的に思考する力 受容する力・対話する力	協働する力 やり抜く力
評価方法		○スキルテスト ○授業観察 ○まとめプリント相互評価 など	○授業観察 ○まとめプリント記述 ○相互評価 など	○授業観察 ○選択ノート ○まとめプリント ○相互評価 など

# 年間指導計画

期	考査 範囲	学習内容	学習のねらい
前    期		体づくり運動 体ほぐしの運動 実生活に生かす運動の計画	○2年次以降の選択制授業に向けて様々な競技の特性に触れ、技能・競技のルール・試合の進め方などの知識を習得することができる。  ○仲間とともに課題解決に向けて思考し、自分の考えや思いを表現、伝えることができる。  ○授業中はグループ活動やチームでの活動も多く行うことから、仲間と競争や協働の経験を通して主体的かつ意欲的に活動を行う態度や人間力を身につけることができる。  ○生涯にわたって運動やスポーツを継続していきたいと思うような学習内容を多く取り入れて競技の特性や魅力に触れることができる。
		ソフトボール（男子） バレーボール（女子）	
		体育理論（男女）	
		ダンス（男女）	
		陸上競技（男子） バドミントン（女子）	
後   期		バasketボール（男子） 器械運動（女子）	
		器械運動（男子） 陸上競技（女子）	
		サッカー（男子） バasketボール（女子）	

\* 年間指導計画は予定であり、変更がある場合には、連絡します。

## 指導と評価

教科名		科目名	講座名(校内名称)		単位数
保健体育		保健	保健		1
履修学科		履修年次	期	履修形態	
家政科		1	通期	一斉	
履修条件					
教材名・副教材名		現代高等保健体育（大修館書店） 図説現代高等保健（大修館書店）			
指導到達目標		<ul style="list-style-type: none"> <li>○様々な疾病や怪我などの特徴や予防方法の知識を身につけるとともに、日常生活の中に実践できる技能を身につけることができる。</li> <li>○健康課題の発見や課題解決に向けて思考，判断するとともに自らの考えを仲間に伝え，共有することができる。</li> <li>○生涯を通じて，自他の健康の保持増進に興味，関心を持ち，心身ともに健康的な人生を送ろうとする態度を養うことができる。</li> </ul>			
講座内容		<p>講座内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「現代社会と健康」では，我が国の疾病構造や社会の変化に対応して，健康を保持増進するためには，ヘルスプロモーションの考え方を生かし，人々が適切な生活行動を選択し実践すること及び環境を改善していく努力が重要であることを理解できるようにする。</li> </ul> <p>また，新たに取り上げられることとなった「がん」や「精神疾患」など現代における健康課題とその予防について学ぶことで正しい知識を身につけ，これらの健康課題を解決していくために必要な実践力を養うようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「安全な社会生活」では，交通安全や応急手当の知識はもちろんのこと，特に心肺蘇生法の手順や AED を用いた心肺蘇生法の技能についても実践できるようにする。</li> </ul> <p>具体的な単元：「生活習慣病の予防と回復」「がんの原因と予防」「精神疾患の特徴」「応急手当の意義とその基本」など</p>			
評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	B を大きく上回っている状況	B を大きく上回っている状況	B を大きく上回っている状況	
	B おおむね満足できる	「現代社会と健康」，「安全な社会生活」の単元を通して基礎的な知識を習得し，AED や応急手当などの技能を身につけ，実践できるようにする。	様々な疾病や安全に生活していくための予防法を思考したり，健康に生活を送るための正しい選択ができる判断力を身につけたりしようとする。また，考えたことをグループの仲間に向けて伝えようとする。	自分の健康や安全について興味関心を持ち，積極的に考えることができる。また，他者の意見や考えを尊重し，多面的に物事を考えようとする。	
	C 努力を要する	B を大きく下回っている状況	B を大きく下回っている状況	B を大きく下回っている状況	
育てたい生徒像（資質・能力）との関連		幅広い教養 高度な技術	情報を分析し表現する力 理論的・多面的に思考する力 受容する力・対話する力	協働する力 やり抜く力	
評価方法		<ul style="list-style-type: none"> <li>○定期考査</li> <li>○授業ノート・プリント</li> <li>○小テスト</li> <li>○授業観察 など</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○授業ノート・プリント</li> <li>○授業観察</li> <li>○課題学習における制作物や提出物 など</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○提出物</li> <li>○授業ノート・プリント</li> <li>○授業観察 など</li> </ul>	

# 年間指導計画

期	考査 範囲	学習内容	学習のねらい
前          期	第3回	○「現代社会と健康」 健康の考え方と成り立ち 私たちの健康のすがた 生活習慣病の予防と回復 がんの原因と予防 がんの治療と回復 運動と健康 食事と健康 休養睡眠と健康 喫煙と健康 飲酒と健康 薬物乱用と健康 精神疾患の特徴 精神疾患の予防 精神疾患からの回復	○各単元の基礎的な知識を理解し、自分の日常生活に生かそうとする力を養う。  ○保健は自分の日常生活に直結する学問であることを意識し、健康で安全な生活を送っていくための方策を思考し、グループの仲間と共有する力を身につける。  ○授業中は様々な健康課題について、グループ内で考え、仲間と積極的に課題解決に向けて取り組む姿勢が求められる。  ○できるだけ身近な話題に触れ、興味関心を高めようとする。
後          期	第5回	現代の感染症 感染症の予防 性感染症エイズとその予防 健康に関する意思決定行動選択 健康に関する環境づくり  ○「安全な社会生活」 事故の現状と発生要因 安全な社会の形成 交通における安全 応急手当の意義とその基本 日常的な応急手当 心肺蘇生法	

\* 年間指導計画は予定であり、変更がある場合には、連絡します。

## 指導と評価

教科名		科目名	講座名(校内名称)		単位数
芸術		音楽 I	音楽 I		2
履修学科		履修年次	期	履修形態	
家政科		1	通期	選択	
履修条件					
教材名・副教材名		高校生の音楽 I (教育芸術社)			
指導到達目標		<p>○曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。</p> <p>○自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができるようにする。</p> <p>○主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。</p>			
講座内容		<p>○歌唱においては、斉唱・混声 2～3 部合唱。</p> <p>○器楽ではギター、箏を使用する。</p> <p>○鑑賞では、CD・DVD・楽器実演奏等を用いる。</p> <p>年間を通して音楽の幅広い知識を身につける。</p>			
評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	B を大きく上回っている状況	B を大きく上回っている状況	B を大きく上回っている状況	
	B おおむね満足できる	曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などの関わりなどについて理解を深める。 創意工夫などを活かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽、創作で表している。	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら、関わりについて考え、どのように表現するか意図をもっている。	音や音楽、音楽文化と豊かに関わり主体的・協働的に表現、鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。	
	C 努力を要する	B を大きく下回っている状況	B を大きく下回っている状況	B を大きく下回っている状況	
育てたい生徒像(資質・能力)との関連		幅広い教養 高度な技術	情報を分析し表現する力 論理的・多面的に思考する力 受容する力・対話する力	協働する力 やり抜く力	
評価方法		<ul style="list-style-type: none"> <li>○授業態度の観察</li> <li>○振り返りシート</li> <li>○小テスト</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○授業態度の観察</li> <li>○鑑賞課題</li> <li>○振り返りシート</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○授業態度の観察</li> <li>○発表態度の観察</li> <li>○鑑賞課題</li> <li>○振り返りシート</li> </ul>	

# 年間指導計画

期	考査 範囲	学習内容	学習のねらい
前   期		○歌唱	<p>○歌うときの基本的な姿勢や呼吸, 発声などの技能を身に付け, 歌詞の内容を理解し, 自己のイメージをもって曲想にふさわしい発声で表現を工夫して歌う</p> <p>○日本語を美しく歌うために, 鼻濁音や子音の発音に注意するとともに, 歌詞の内容や背景を理解し, 情景を思い浮かべて詩情にあった歌唱表現を工夫して歌う</p> <p>○曲想と音楽の構造や歌詞との関わりについて関心をもち, 表現意図をもって歌う</p>
後   期		○リズム合奏	<p>○豊かな音色になるようリズム奏に用いる打楽器の組み合わせ方を工夫したり, リズムパターンを即興で変化させたりして, ダイナミックなリズム合奏をする</p>
後   期		○器楽	<p>○音楽の特徴を知覚し, それらの働きを感受しながら知覚したことと感受したこととの関わりについて考え, 演奏する</p>
		○創作	<p>○音楽を形づくっている要素を手がかりに, 自分のイメージに合う旋律を創作する。</p>
		○鑑賞	<p>○音楽の特徴と文化・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解する。</p>

\* 年間指導計画は予定であり、変更がある場合には、連絡します。

## 指導と評価

教科名		科目名	講座名(校内名称)		単位数
芸術		美術 I	美術 I		2
履修学科		履修年次	期	履修形態	
家政科		1	通期	選択	
履修条件					
教材名・副教材名		美術 1 (光村図書)			
指導到達目標		<p>絵画・デザインなど、美術の幅広い創造活動を通して、美的体験を豊かにし、表現する能力を伸ばすとともに、美術を愛好する心情を養う。</p> <p>課題の導入として鑑賞活動を、課題の終わりに生徒作品の相互鑑賞を含めた制作のまとめを行い、様々なものに触れあう機会を作り、感じたことや思ったことを言葉にまとめる力を身につける。</p>			
講座内容		<p>○人物クロッキーを通して、ものの見方や描き方を学び、基礎的な描写の技術を身につける。</p> <p>○絵画の分野では、表現方法や色・形などを工夫しながら作品を制作していく。その中で、「自分らしさ」について考えていく。</p> <p>○デザインの分野では、自分の考えや表現したいイメージを整理し、着彩段階では色相対比・明度対比を効果的に利用した色彩構成を考えていく。</p> <p>○教科書に掲載されている作品を鑑賞し、その特徴や表現方法を学びながら創造活動の幅を広げる。</p> <p>○作品完成後お互いの作品を鑑賞し、表現の違いや良さについて考える。</p>			
評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	B を大きく上回っている状況	B を大きく上回っている状況	B を大きく上回っている状況	
	B おおむね満足できる	<p>表現および鑑賞の活動を通して、造形的な見方・考え方について理解を深めることができる。</p> <p>教材や用具の特性を生かして、自分の意図に応じて表現方法を工夫し、創造活動を行うことができる。</p>	<p>アイディアスケッチや色彩表現において、自分の思いや考えをまとめることができる。</p> <p>作品ごとに効果的な表現方法を判断し制作することができる。</p> <p>授業を振り返り、感じたことや学んだことをまとめることができる。</p>	<p>他者の考え方を尊重しながら自分の意見や考えを持ち、作品に反映することができる。</p> <p>感じたことや考えていることを自分の言葉でまとめることができる。</p>	
	C 努力を要する	B を大きく下回っている状況	B を大きく下回っている状況	B を大きく下回っている状況	
育てたい生徒像(資質・能力)との関連		<p>○幅広い教養</p> <p>○高度な技術</p>	<p>○情報を分析し表現する力</p> <p>○論理的・多面的に思考する力</p> <p>○受容する力・対話する力</p>	<p>○協働する力</p> <p>○やり抜く力</p>	
評価方法		<p>○授業態度の観察</p> <p>○提出作品</p> <p>○アイディアスケッチ</p> <p>○振り返りシート</p>	<p>○授業態度の観察</p> <p>○提出作品</p> <p>○振り返りシート</p>	<p>○授業態度の観察</p> <p>○振り返りシート</p>	

# 年 間 指 導 計 画

期	考査 範囲	学習内容	学習のねらい
前 期		○ガイダンス	美術 I についての概要を知る
		○人物クロッキー	○絵を描くための基本的なものの見方や描き方を身につける
後 期		○絵画（油彩） 「靴を描く」	○油彩画の効果的な表現方法を知る ○モチーフの固有色だけでなく，自分の感じた色を大切に表現する
		○デザイン 「自分人形イラスト」	○ポスターカラーの基礎的な表現方法を知る ○色相対比・明度対比を効果的に利用して表現する
後 期		○絵画（透明水彩画法） 「花を描く」	○透明水彩の基本的な表現方法を知る にじみ・ぼかしの技法を効果的に利用して表現する
		○絵画・デザイン（コラージュ） 「コラージュで描くカレンダー制作」	○素材や用具の特性を理解し制作する

\* 年間指導計画は予定であり、変更がある場合には、連絡します。

## 指導と評価

教科名		科目名	講座名(校内名称)		単位数
芸術		書道 I	書道 I		2
履修学科		履修年次	期	履修形態	
家政科		1	通期	選択	
履修条件					
教材名・副教材名		書 I (教育図書) 書 I プライマリーブック (教育図書)			
指導到達目標		<ul style="list-style-type: none"> <li>○漢字の五書体および仮名の成立の歴史を知り、楷書・行書・仮名の書の用筆法・運筆法を身につけ、それぞれの書体の持つ美しさを感じることができるようにする。</li> <li>○臨書で培った筆法により、創作の中で自分の心象風景を表現できるようにする。</li> <li>○古今の名作や他の生徒の作品を鑑賞する中で、自分の考えや感じたことを話せるようにする。</li> <li>○様々な書活動を通じて生涯にわたり書を愛好する心情を養う。</li> </ul>			
講座内容		<ul style="list-style-type: none"> <li>○書写から書道への内容に移行していく中で、ただ整った文字を書くだけでなく、様々な美しさがあることを学ぶ。</li> <li>○漢字の五書体および仮名の成立の歴史を知り、楷書・行書・仮名の書の用筆法・運筆法を身につけ、それぞれの書体の持つ美しさを感じる。</li> <li>○篆刻により自身の名印を作成する。</li> <li>○漢字仮名交じり書の学習を通して様々な書にふれ、一元的なものではない美に気づいていく。</li> </ul>			
評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	B を大きく上回っている状況	B を大きく上回っている状況	B を大きく上回っている状況	
	B おおむね満足できる	書の表現の方法や形式、書表現の多様性について幅広く理解している。 書写能力を向上させるとともに、書の伝統に基づき、作品を効果的に表現するための基礎的な技能を身に付け、表している。	書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりする。	主体的に書の表現及び鑑賞の幅広い活動に取り組もうとしている。	
	C 努力を要する	B を大きく下回っている状況	B を大きく下回っている状況	B を大きく下回っている状況	
育てたい生徒像(資質・能力)との関連		幅広い教養 高度な技術	情報を分析し表現する力 論理的・多面的に思考する力 受容する力・対話する力	協働する力 やり抜く力	
評価方法		<ul style="list-style-type: none"> <li>○授業態度の観察</li> <li>○作品の評価</li> <li>○小テスト</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○授業態度の観察</li> <li>○作品の評価</li> <li>○鑑賞課題の点検</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○授業態度の観察</li> <li>○発表態度の観察</li> <li>○鑑賞課題の点検</li> </ul>	

# 年間指導計画

期	考查 範囲	学習内容	学習のねらい
前   期		<p>書写から書道へ</p> <p>楷書（『孔子廟堂碑』、『九成宮醴泉銘』、『雁塔聖教序』、『牛欄造像記』、楷書の創作）</p> <p>篆刻（名印）</p>	<p>○中学校国語科書写の機能性を軸とした学習から、芸術科書道の表現性を軸とした学習へと移るため、共通点と相違点、基本的内容を理解する。</p> <p>○様々な楷書を比較することで表現の多様性を理解し、作品制作に活用することができるようにする。</p> <p>○様々な印があることを知り、作品と落款印との関係を理解する。 自分の印を刻すことによって、興味・関心・意欲を高めることができるようにする。</p>
後   期		<p>行書（『蘭亭序』、行書の創作）</p> <p>仮名の書（いろは歌、『蓬萊切』）</p> <p>漢字仮名交じりの書</p>	<p>○臨書学習により、行書の基本的な点画や線質の表し方、用筆法・運筆法を学ぶことで、様々な書の表現性とその表現効果との関わりを理解できるようにする。</p> <p>○仮名の点画や線質の表し方と用筆法・運筆法を理解し表現できるようにする。 単体・連綿と全体の構成を考え、意図に基づく表現の構想と工夫ができるようにする。</p> <p>○表現と用具・用材との関係を理解し、漢字と仮名の調和した線質の表し方、字形や文字の大きさと全体構成の表し方を工夫し、意図に基づく表現ができるようにする。</p>

\* 年間指導計画は予定であり、変更がある場合には、連絡します。

## 指導と評価

教科名		科目名	講座名(校内名称)		単位数
外国語		英語コミュニケーション I	英語コミュニケーション I		3
履修学科		履修年次	期	履修形態	
家政科		1	通期	一斉	
履修条件					
教材名・副教材名		<ul style="list-style-type: none"> <li>○MY WAY English Communication I (三省堂)</li> <li>○MY WAY English Communication I Workbook(桐原書店)</li> <li>○LEAP Basic (数研出版)</li> </ul>			
指導到達目標		<p>日常的・社会的な話題について、多くの支援を活用すれば、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○必要な情報を聞き取り、話し手の意図を把握したり、概要や要点を目的に応じて捉えたりすることができる。</li> <li>○必要な情報を読み取り、書き手の意図を把握したり、概要や要点を目的に応じて捉えたりすることができる。</li> <li>○基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを話して伝え合うやり取りを続けたり、論理性に注意して話して伝え合ったりすることができる。</li> <li>○基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して話して伝えることができる。</li> <li>○基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して文章を書いて伝えることができる。</li> </ul>			
講座内容		<ul style="list-style-type: none"> <li>○教科書の本文を利用して、「読む」「書く」「聞く」「話す（やりとり）」「話す（発表）」という5領域を育成し、英語を総合的に学ぶ。</li> <li>○さまざまな題材を用いて英語による言語活動を行い、英語の学習を通じて、自らの力で考え、判断し、表現できる力を培う。</li> <li>○中学校で学んだ学習事項を系統的に整理しながら、高等学校での学習内容へスムーズに移行できるように配慮するものとする。</li> <li>○習熟度別授業では、基礎学力の定着を図るとともに高校の内容を深化させながら発展的発信力の養成も視野に入れる。</li> </ul>			
評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	B を大きく上回っている状況	B を大きく上回っている状況	B を大きく上回っている状況	
	B おおむね満足できる	各トピックの内容で使われる表現の意味や働きを理解している。 また、それぞれの表現について、その役割に応じて活用する技能を身につけている。	場所・目的・状況などに応じて、日常的・社会的な話題について、情報や考えなどを外国語で的確に理解したり適切に伝え合ったりしている。	他者を尊重し、聞き手・読み手・話し手・書き手に配慮しながら、外国語で聞いたり、読んだりしたことを活用して自分の意見や考えなどを話したり書いたりして表現しようとしている。	
	C 努力を要する	B を大きく下回っている状況	B を大きく下回っている状況	B を大きく下回っている状況	
育てたい生徒像(資質・能力)との関連		幅広い教養 高度な技術	情報を分析し表現する力 論理的・多面的に思考する力 受容する力・対話する力	協働する力 やり抜く力	
評価方法		<ul style="list-style-type: none"> <li>○定期考査</li> <li>○パフォーマンステスト</li> <li>○小テスト</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○定期考査</li> <li>○パフォーマンステスト</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○小テスト</li> <li>○提出物</li> <li>○授業態度の観察</li> </ul>	

## 年間指導計画

期	考查 範囲	学習内容	学習のねらい
前 期	第1回	Lesson 1 Proverbs Around the World ○現在形・過去形 / 進行形 / SVO(O=that 節)  Lesson 2 Iwago Mitsuaki — An Animal Photographer ○助動詞 / 受け身 / 助動詞のついた受け身	○英語を理解し、英語で表現する態度や能力を養う。  ○英語の質問に対して反射的に答える習慣を身につけると同時に、的確かつ簡潔に答える能力を高め、さらにスピーキングテスト等でも落ち着いて話せるようになることを目指す。
	第2回	Lesson 3 Sending Canned Mackerel to Space ○動名詞 / to 不定詞の名詞的用法・副詞的用法 / to 不定詞の形容詞的用法  Lesson 4 Messages from Winnie-the-Pooh ○現在完了形 / 現在完了進行形 / 過去完了形	○授業中は英語力にかかわらず、ペア（グループ）ワークに英語を用いて意欲的かつ積極的にとらうとする姿勢が求められる。  ○分からない単語やフレーズについても辞書で調べ、次回必ず答えられるように徹底的に復習する。
	第3回	Lesson 5 Endangered Languages ○関係代名詞(主格) / 関係代名詞(目的格) / 関係代名詞 what / It is ... to 不定詞  Lesson 6 A Wheelchair Traveler ○現在分詞の形容詞的用法 / 過去分詞の形容詞的用法 / 分詞構文 / It is ... that	
後 期	第4回	Lesson 7 The Fugees ○関係副詞 where / 関係副詞 when / 関係副詞 why / 比較級・最上級  Lesson 8 Avatar Robots ○条件を表す if 節 / 仮定法過去 / I wish ~ / as if ~	
	第5回	Lesson 9 Kadono Eiko and the Power of Imagination ○SVO1O2(O2=how to~) / SVO+ to 不定詞 / SVOC(C=動詞の原形) / SVOC(C=現在分詞)  Lesson 10 SDGs — Sustainable Development Goals	

\* 年間指導計画は予定であり、変更がある場合には、連絡します。

## 指導と評価

教科名		科目名	講座名(校内名称)		単位数
家庭		家庭総合	家庭総合		3
履修学科		履修年次	期	履修形態	
家政科		1	通期	一斉	
履修条件					
教材名・副教材名		家庭総合 自立・共生・創造（東京書籍），Super Live View（東京書籍） 家庭科問題集 基礎編			
指導到達目標		<p>生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○人の一生と家族・家庭及び福祉，衣食住，消費生活・環境などについて，生活を主体的に営むために必要な科学的な理解を図るとともに，それらに係る技能を体験的・総合的に身に付けるようにする。</li> <li>○家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見だして課題を設定し，解決策を構想し，実践を評価・改善し，考察したことを科学的な根拠に基づいて論理的に表現するなど，生涯を見通して課題を解決する力を養う。</li> <li>○様々な人々と協働し，よりよい社会の構築に向けて，地域社会に参画しようとするとともに，生活文化を継承し，自分や家庭，地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。</li> </ul>			
講座内容		<ul style="list-style-type: none"> <li>○人の一生と家族・子どもや高齢者のかかわりと福祉，消費生活，衣食住などに関する知識と技術を総合的に習得する。</li> <li>○全体を通して，視聴覚教材や実験・実習などを取り入れて体験的に学習する。</li> <li>○特に食生活・衣生活を重点的に学習し，家庭科技術検定食物4級・被服3級を取得する。</li> </ul>			
評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	
	B おおむね満足できる	人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え，家族・家庭の意義，家族・家庭と社会との関わりについて理解を深め，生活を主体的に営むために必要な家族・家庭，衣食住，消費や環境などについて理解しているとともに，それらに係る技能を身に付けている。	生涯を見通して，家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見だして課題を設定し，解決策を構想し，実践を評価・改善し，考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	様々な人々と協働し，よりよい社会の構築に向けて，課題の解決に主体的に取り組んだり，振り返って改善したりして，地域社会に参画しようとするとともに，自分や家庭，地域の生活を創造し，実践しようとしている。	
	C 努力を要する	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	
育てたい生徒像（資質・能力）との関連		幅広い教養 高度な技術	情報を分析し表現する力 論理的・多面的に思考する力 受容する力・対話する力	協働する力 やり抜く力	
評価方法		<ul style="list-style-type: none"> <li>○授業態度の観察</li> <li>○課題の点検</li> <li>○定期考査</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○授業態度の観察</li> <li>○課題の点検</li> <li>○定期考査</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○授業態度の観察</li> <li>○課題の点検</li> <li>○定期考査</li> </ul>	

# 年間指導計画

期	考查範囲	学習内容		学習のねらい
		A (前期2後期1)	B (前期1後期2)	人の一生と家族・家庭，子どもや高齢者とのかかわりと福祉，消費生活，衣食住などに関する知識と技術を総合的に学習する。 また，家庭や地域の生活課題を主体的に解決し，生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を身に付けることをねらいとする。
前期	第1回	ガイダンス HP・学校家庭クラブ 自分らしい人生をつくる	家庭科を学ぶにあたって 家庭クラブの歌（手話歌）	
	第2回	食生活をつくる 栄養素 炭水化物 脂質 たんぱく質 食物検定4級説明・練習 食物検定4級受験	衣生活をつくる 被服の役割を考える 被服を入手する 被服を管理する パンツの種類と特徴 型紙作り	
	第3回	食事摂取基準 食品群別摂取量のめやす 食生活の安全と衛生	裁断・印付け 縫製	
後期	第4回	家族・家庭を見つめる 家族と法律	仕上げ 被服検定3級練習 被服検定3級受験	
	第5回	家庭生活と社会 経済生活を営む 職業生活を設計する 計画的に使う 国民経済・国際経済と家庭の経済生活 現代の消費社会 消費者の権利と責任 消費生活と環境 子どもと共に育つ 命を育む 子どもの育つ力を知る 自分らしい人生をつくる	住生活をつくる 住生活について考える 住生活の計画と選択 高齢社会を生きる 共に生き，共に支える 私たちの生活と福祉 社会保障の考え方	

\* 年間指導計画は予定であり、変更がある場合には、連絡します。

## 指導と評価

教科名		科目名	講座名(校内名称)		単位数
家庭(専)		生活産業基礎	生活産業基礎		2
履修学科		履修年次	期	履修形態	
家政科		1	通期	一斉	
履修条件					
教材名・副教材名		生活産業基礎(実教出版)			
指導到達目標		1 家庭の生活を支える衣食住や保育・介護などのヒューマンサービスに関わる産業(生活産業)や関連する職業に関心を持ち、知識・技術を身につける。 2 社会の変化に伴って、生活産業がどのように発展してきているのか、どんな産業や職業があるのか、その職業に就くためにはどんな学習が必要なのかなどについて学習する。 3 自分自身の生活をより豊かにするだけでなく、学んだことを生かして職業人としてあるいは地域に生きる人材として、社会に貢献できる態度を身につける。			
講座内容		○生活産業を学ぶに当たって ○ライフスタイルの変化と生活産業 ○ライフスタイルの変化に対応した商品・サービスの提供 ○生活産業と職業 ○職業生活と自己実現			
評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	
	B おおむね満足できる	生活産業や関連する職業について、体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	生活産業や関連する課題を発見し、生活産業を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を身に付けている。	生活産業や関連する職業への関心を高め、適切な進路選択と専門性の向上を目指して自ら学び、生活産業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。	
	C 努力を要する	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	
育てたい生徒像(資質・能力)との関連		幅広い教養 高度な技術	情報を分析し表現する力 論理的・多面的に思考する力 受容する力・対話する力	協働する力 やり抜く力	
評価方法		定期考査 確認テスト 作品	定期考査 ワークシート 振り返り	ワークシート 振り返り 授業態度の観察	

# 年間指導計画

期	考査 範囲	学習内容	学習のねらい
前期	第2回	生活産業を学ぶに当たって	<ul style="list-style-type: none"> <li>○職業人として、人々の生活の質の向上や社会の発展に寄与することの大切さを理解する。</li> <li>○生活産業が人々の生活を支え、心の豊かさをもたらしていることを考察する。</li> <li>○経済の発展と社会の変化に伴い、勤労形態や価値観、ライフスタイルが多様化している状況や人々のニーズに応じて生活産業が発展していることを理解する。</li> <li>○近年のグローバル化の進展と日本の伝統産業の現状を見つめ、課題を発見し、今後の展望について考える。</li> </ul>
		ライフスタイルの変化と生活産業	
後期	第4回	ライフスタイルの変化に対応した商品・サービスの提供	<ul style="list-style-type: none"> <li>○様々なライフスタイルにおける消費者のニーズを的確にとらえることが必要であることを理解する。</li> <li>○生活産業に関わる身近な商品やサービスを例に、消費者のニーズに合う新商品や新サービス、またその提供方法を考えることができる。</li> <li>○家庭に関する学科に関連した産業の種類や特徴、関係する職業について、理解する。</li> <li>○生活産業に関係する職業などを調べ、発表する。</li> </ul>
	第5回	職業生活と自己実現	

\* 年間指導計画は予定であり、変更がある場合には、連絡します。

## 指導と評価

教科名		科目名	講座名(校内名称)		単位数
家庭(専)		生活産業情報	生活産業情報		2
履修学科		履修年次	期	履修形態	
家政科		1	通期	一斉	
履修条件					
教材名・副教材名		「生活産業情報」(実教出版), 「日本語ワープロ検定」(日本情報処理検定協会)			
指導到達目標		<p>(1) 生活産業の各分野における情報の意義や役割, 情報及び情報技術を活用する方法について体系的・系統的に理解するとともに, 関連する技術を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 生活産業に関する課題を情報及び情報技術を活用して発見し, 生活産業を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を養う。</p> <p>(3) 生活産業における情報及び情報技術の活用や専門性の向上を目指して自ら学び, 生活の質の向上と社会の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。</p>			
講座内容		<ul style="list-style-type: none"> <li>○情報化の進展と社会</li> <li>○情報モラルとセキュリティ</li> <li>○コンピュータとプログラミング</li> <li>○生活産業情報におけるコミュニケーションと情報デザイン</li> <li>○タイピング練習を行いキーに慣れ, タイピング速度と正確性の向上をはかる。</li> </ul>			
評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	B を大きく上回っている状況	B を大きく上回っている状況	B を大きく上回っている状況	
	B おおむね満足できる	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生活産業の各分野における情報の意義や役割, 情報モラル, セキュリティ, プログラミングや情報通信ネットワークを理解することができる。</li> <li>○情報技術を適切に活用できるようメディアの特性やコミュニケーションの方法, プログラミングやモデル化の方法などを基礎から順序立てて, 情報及び情報技術について幅広く科学的に理解することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○衣食住, 保育, 家庭看護及び介護などのヒューマンサービスに関わる情報を情報機器や情報通信ネットワークを活用し, 収集, 処理, 分析することができる。</li> <li>○生活の質の向上や社会の発展を目指す職業人であることを意識して, 職業人に求められる倫理観をもって, 複数の情報と結び付けて新たな意味を見いだすことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○積極的に情報機器や情報通信ネットワークを活用することや, 自らの専門性の向上を図るために, 主体的に学ぶことができる。</li> <li>○職業人として生活の質の向上と社会の発展のために, 自ら考え行動するとともに, 周囲の人々と協働して取り組むことができる。</li> </ul>	
	C 努力を要する	B を大きく下回っている状況	B を大きく下回っている状況	B を大きく下回っている状況	
育てたい生徒像(資質・能力)との関連		幅広い教養 高度な技術	情報を分析し表現する力 論理的・多面的に思考する力 受容する力・対話する力	協働する力 やり抜く力	
評価方法		<ul style="list-style-type: none"> <li>○提出物</li> <li>○定期考査</li> <li>○実技テスト</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○提出物</li> <li>○定期考査</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○提出物</li> <li>○授業態度の観察</li> </ul>	

# 年間指導計画

期	考査 範囲	学習内容	学習のねらい
前 期	第2回	○情報化の進展と社会	○情報化の進展に伴い,産業や生活がどのように変化してきたか,また今後を含めその概要を理解する。
		○生活産業における情報化の進展	○生活産業の各分野で,情報機器・情報システム・ネットワークがどのように利用されているか理解し,情報化が及ぼす影響について考察できるようになる。
		○情報モラルとセキュリティ	○ネットワークを使用する際に注意するモラルやマナーについて,具体的な事例から理解する。
後 期	第3回	○情報コンテンツと情報デザイン	○文書作成ソフト,プレゼンテーションソフトの概要を理解し,操作方法を習得する。
		○コンピュータとプログラミング	○生活産業における具体的な事例を取り上げ,モデル化やシミュレーションが表計算ソフトウェアを活用して適切に行うなど,工夫することができるようになる。
	第4回	○目的に応じたコミュニケーション	○様々なメディアの特性とコミュニケーション手段の特徴を理解し,情報コンテンツ作成に関連する技術を身に付ける。  ○目的や対象に応じたコミュニケーションの方法や情報デザインについて課題を発見し,プレゼンテーションソフトウェアなどを活用しながら,その解決に向けて考察することができるようになる。  ○日本語ワープロ検定受験 [全員・各級]

\* 年間指導計画は予定であり,変更がある場合には,連絡します。

## 指導と評価

教科名		科目名	講座名(校内名称)		単位数
家庭(専)		保育基礎	保育基礎		2
履修学科		履修年次	期	履修形態	
家政科		1	通年	一斉	
履修条件					
教材名・副教材名		保育基礎 (実教出版) 保育基礎 新課程版 学習ノート (実教出版)			
指導到達目標		家庭の生活に関わる産業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、保育を担う職業人として必要な基礎的な資質・能力を育成することを目指す。			
講座内容		<p>○「子どもの保育」では、幼稚園や保育園で実際に子どもと触れ合い、発達や生活の特徴を関連付けて理解できるよう学習する。</p> <p>○「子どもの発達」では、特に、基本的な人間関係の樹立のために「愛着」が重要であることを、具体的な事例を通して学習する。</p> <p>○「子どもの生活と養護」では、子どもの健康な生活に必要な「食」を営む力など基本的な生活習慣の形成の基礎について学習する。</p> <p>○「子どもの福祉」では、児童福祉に関する基本的な法律と制度、子育て家庭への支援について学習する。</p> <p>○「子どもの文化」では、子どもの虐待とその予防について学習する。</p> <p>○保育検定4級受検(家庭看護技術・音楽リズム表現技術)</p>			
評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	
	B おおむね満足できる	保育に関する基礎的・基本的な技術、子どもの発達の特性、生活と保育に関する知識を総合的に身に付けている。	子どもの発達をふまえ、課題を見つけ、その解決を目指して保育を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を身に付けている。	子どもについての関心を持ち、意欲的に学習に取り組み、子どもの発達や子育て支援に寄与していこうとする主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。	
	C 努力を要する	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	
育てたい生徒像(資質・能力)との関連		幅広い教養 高度な技術	情報を分析し表現する力 論理的・多面的に思考する力 受容する力・対話する力	協働する力 やり抜く力	
評価方法		○検定(家庭看護・音楽リズム) ○定期テスト ○作品完成度	○定期考査 ○ワークシート ○発表発表 ○課題レポート	○提出物 ○保育実習 ○出席状況 ○ワークシート ○授業態度の観察	

## 年間指導計画

期	考査 範囲	学習内容	学習のねらい
前 期	第1回	○子どもの発達の特徴 発達の意味 発達と保育環境 児童観と発達観	○子どもに関心を持ち、乳幼児期の意義、子どもの発達と保育環境のかかわりについて知り、環境を整えることの重要性について思考を深める。
	第2回	○子どもの発達の過程 子どもの発育 子どもの精神発達 人間関係の発達  ○保育検定4級（家庭看護・音楽リズム）	○生命の誕生について関心を持ち、乳幼児の身体的特徴・生理的特徴の知識の習得と精神発達の特徴を学び、人間形成について思考を深める。  ○保育に必要な技能と知識を習得する。
	第3回	○子どもの保育 保育の意味 家庭保育と集団保育 保育の方法	○家庭保育と集団保育の意義と重要性を知り保育環境の変化を確認し、今後の保育の課題を考える。
後 期	第4回	○子どもの生活 子どもの遊び 生活習慣の形成 健康管理と事故防止 ○玩具製作 ○幼稚園実習	○子どもの健康・食生活・衣生活が発育や発達に大きく影響を及ぼすことを理解し、必要なものを選択できる。 ○玩具を製作することで、玩具が子どもの発達を促すことを理解する。 ○幼稚園実習を通して、子どもと適切にかかわる技能を身に付ける。
	第5回	○子どもの福祉 子どもの福祉 子どもの福祉 子育て支援  ○ベビーウエア製作 ○育児体験実習	○子どもの福祉に関心を持ち、児童福祉の理念や法律と制度について理解する。 ○子育て支援の意義と現状を理解し、今後の課題と展望を考える。  ○親になるための準備体験を通し、子どもや家族の大切さを理解する。

\* 年間指導計画は予定であり、変更がある場合には、連絡します。

## 指導と評価

教科名		科目名	講座名(校内名称)		単位数
家庭(専)		ファッション造形基礎	ファッション造形基礎		2
履修学科		履修年次	期	履修形態	
家政科		1	通期	一斉	
履修条件					
教材名・副教材名		ファッション造形基礎(実教出版) 家庭科問題集 被服編			
指導到達目標		<p>家庭の生活に関わる産業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通してファッションの造形を担う職業人として必要な基礎的な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>1 被服の構成、被服材料の種類や特徴、被服製作などについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。</p> <p>2 被服製作やデザインに関する課題を発見し、ファッションの造形を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を養う。</p> <p>3 衣生活の充実向上を目指して自ら学び、ファッションの造形に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。</p>			
講座内容		<p>○手縫いやミシン縫いなどの被服製作の基本的な知識・技術を学ぶ。 (家庭科技術検定 4級)</p> <p>○甚平の製作を通じて、被服の構成や服材料の特徴と性能、被服材料の選択について学ぶ。</p> <p>○甚平の製作を通じて、和服製作の構成と名称、縫製技術を学ぶ。</p> <p>○製作した作品を用いて、基本的な着装方法やたたみ方について学ぶ。</p> <p>○残布の小物の製作で、資源や環境に配慮した材料の扱い方について学ぶ。</p>			
評価の観点		知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	
	B おおむね満足できる	被服製作に関する基礎的・基本的な理論と技術を理解して、製作することができる。	被服製作に関する基礎的・基本的な理論と技術を活かして、製作に向けて考察している。	被服製作において計画に従って主体的かつ協働的に取り組もうとしている。	
	C 努力を要する	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	
育てたい生徒像(資質・能力)との関連		幅広い教養 高度な技術	情報を分析し表現する力 論理的・多面的に思考する力 受容する力・対話する力	協働する力 やり抜く力	
評価方法		○授業態度の観察 ○課題の点検 ○定期考査	○授業態度の観察 ○課題の点検 ○定期考査	○授業態度・進度の観察 ○課題の点検 ○定期考査	

# 年間指導計画

期	考査 範囲	学習内容	学習のねらい
前 期	第2回	被服製作の基礎 (家庭科技術検定被服製作 4級)	○被服製作を通じて、製作の用途に適した被服材料の適切な選択と製作に関する基礎的・基本的な理論と技術を身につけ、計画に従って能率的に、主体的かつ協働的に取り組むことができることを目指す。
		甚平の製作 和服の構成と名称 材料の選択 寸法の見積もりと裁断 縫製	
デザイン画講習会 (社会人講師授業)			
後 期	第4回	仕上げ 着装	
		第5回 残布による小物の製作	

\* 年間指導計画は予定であり、変更がある場合には、連絡します。

## 指導と評価

教科名		科目名	講座名(校内名称)		単位数
家庭(専)		フードデザイン	フードデザイン		2
履修学科		履修年次	期	履修形態	
家政科		1	通期	一斉	
履修条件					
教材名・副教材名		○フードデザイン 新訂版(実教出版) ○Super Live View 家庭科 資料+食品成分表(東京書籍)			
指導到達目標		家庭の生活に関わる産業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、食生活を総合的にデザインするとともに食育を推進し、食生活の充実向上を担う職業人として必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 1 栄養、食品、献立、調理、テーブルコーディネートなどについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身につけるようにする。 2 食生活の現状から食生活全般に関する課題を発見し、食生活の充実向上を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を養う。 3 食生活の充実向上を目指して自ら学び、食生活の総合的なデザインと食育の推進に主体的かつ協同的に取り組む態度を養う。			
講座内容		○栄養・食品・献立・調理に関する分野を学習し、食事を総合的にデザインする能力・態度を身につける。 ○調理実習については、日常食を中心に学ぶ。 ○家庭科技術検定食物調理技術3級を受験する。			
評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	
	B おおむね満足できる	栄養や食品、調理などの食生活全般の基本的な知識を理解するとともに、基礎的・基本的な調理技術を身に付けている。	食生活の現状から課題を発見し、よりよい食生活を実現させるために課題を創造的に解決する力を身に付けている。	食生活の充実向上を目指すために主体的に課題解決に取り組んだり、振り返って改善したりするとともに、実習では他者と協同的に取り組む態度を身に付けている。	
	C 努力を要する	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	
育てたい生徒像(資質・能力)との関連		幅広い教養 高度な技術	情報を分析し表現する力 論理的・多面的に思考する力 受容する力・対話する力	協働する力 やり抜く力	
評価方法		○定期考査 ○実習内容	○定期考査 ○ワークシート	○提出物 ○ワークシート ○授業態度の観察	

## 年間指導計画

期	考査 範囲	学習内容	学習のねらい
前   期	第1回	調理室の使い方 栄養素 無機質 調理実習第1回	○食生活全般に関する基礎的・基本的な知識と技術を身に付け、その知識と技術を活用して課題を解決する力を養うとともに、実習では主体的に、かつ他者と協同的に取り組むことを目指す。
	第2回	栄養素 ビタミン 調理実習第2回  調理実習第3回  食物調理検定3級の説明  食物調理検定3級 目測・実技・筆記対策 夏休み課題	
	第3回	コンクール応募 調理実習第4回  食物調理検定3級 実技練習・筆記・目測対策 調理実習第5回	
後   期	第4回	食物調理検定3級 実技練習・筆記・目測対策 調理実習第6回  食物調理検定3級 目測・実技・筆記試験  調理実習第7回	
	第5回	調理実習第8回  社会人講師授業（デコレーションケーキ）  調理実習第9回	

\* 年間指導計画は予定であり、変更がある場合には、連絡します。

## 指導と評価

教科名		科目名	講座名(校内名称)		単位数
ボランティア		ボランティア基礎	ボランティア基礎		1
履修学科		履修年次	期	履修形態	
家政科		1	通期	一斉	
履修条件					
教材名・副教材名		家庭総合 自立・共生・創造（東京書籍）			
指導到達目標		<p>ボランティアに関する実践的・体験的な学習を通して、ボランティアに必要な基礎的な資質・能力が身に付く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ボランティアの基本的精神やボランティアの歴史・制度などについての正しい知識を身につけることができる。</li> <li>○ボランティアに必要な手話や点字・車椅子の介助などの基本的な技術を身につけることができる。</li> <li>○身近なボランティアを主体的に計画し、実践することができる。</li> <li>○世界のボランティアの考え方やボランティアのあり方について、多様な視点から物事を捉える能力を身につけることができる。</li> </ul>			
講座内容		<ul style="list-style-type: none"> <li>○ボランティアの基本的精神や歴史・制度などの基本的な知識・技術について学ぶ。</li> <li>○ボランティアに必要な手話や点字・車椅子の介助などの基本的な技術を学ぶ。</li> <li>○身近なボランティアを主体的に計画し、実践する。</li> <li>○世界のボランティアの考え方やボランティアのあり方について学ぶ。</li> </ul>			
評価の観点		知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	B を大きく上回っている状況	B を大きく上回っている状況	B を大きく上回っている状況	
	B おおむね満足できる	ボランティアに関する基礎的・基本的な理論と技術を理解して、実践することができる。	ボランティアに関する基礎的・基本的な理論と技術を活かして、身近な問題の解決する力を身に付けている。	ボランティア活動について意欲的に学習し、実践においては計画に従って主体的かつ協働的に取り組もうとしている。	
	C 努力を要する	B を大きく下回っている状況	B を大きく下回っている状況	B を大きく下回っている状況	
育てたい生徒像（資質・能力）との関連		幅広い教養 高度な技術	情報を分析し表現する力 論理的・多面的に思考する力 受容する力・対話する力	協働する力 やり抜く力	
評価方法		<ul style="list-style-type: none"> <li>○授業態度の観察</li> <li>○課題の点検</li> <li>○定期考査</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○授業態度の観察</li> <li>○課題の点検</li> <li>○定期考査</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○授業態度・進度の観察</li> <li>○課題の点検</li> <li>○定期考査</li> </ul>	

## 年間指導計画

期	考查 範囲	学習内容	学習のねらい
前          期	第2回	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ボランティアとは ボランティア活動の現状 ボランティア活動の心得 ボランティア活動の種類 優しい社会</li> <li>○ボランティア計画</li> <li>○ボランティア実践（夏季休業中）</li>   <li>○実践発表</li> <li>○各種実習 歩行介助 車いす介助</li>   <li>○製作ボランティア施設へのお土産作り</li> </ul>	<p>○ボランティアの精神や歴史・現状などボランティアに関する基礎的・基本的な理論と技術を身につけたうえで、身近な問題や課題を多様な視点から捉え、主体的かつ協働的に問題解決にむけて取り組むことができることをねらいとする。</p>
後          期	第5回	<ul style="list-style-type: none"> <li>○老人保健施設実習</li>   <li>○調べ学習 社会とボランティア</li>   <li>○手話</li>   <li>○点字</li> </ul>	

\* 年間指導計画は予定であり、変更がある場合には、連絡します。